

2024 年度 日本泌尿器科学会 (JUA)/米国泌尿器科学会 (AUA) 交流プログラム

2024 JUA/AUA Academic Exchange Program 参加報告

占 部 文 彦 (東京慈恵会医大)

このたび、JUA/AUA Academic Exchange Program を通じて、ミネソタ州ロチェスターの Mayo Clinic での臨床見学およびサンアントニオでの AUA2024 参加の機会を得ることができました。この場を借りて、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

Mayo Clinic の泌尿器科は、臨床スタッフ 42 名、フェロー 10 名、レジデント 25 名を擁する大所帯であり、手術は毎日行われておりました。泌尿器科専用の手術室は 6 室あり、そのすべてにダビンチが配備されていました。私は約 3 週間の滞在期間中、数多くの先生方のロボット手術を主に見学する機会をいただきました。直前に参加した AUA2024 で展示されていたダビンチ 5 が、すでに

Mayo Clinic では稼働しており、さらにダビンチ SP を用いた前立腺全摘手術が日々行われているなど、米国の high volume center の実態を目の当たりにすることができました。

手術室の規模や症例数、最新の機器の導入には圧倒されましたが、私が特に感銘を受けたのは、レジデントやフェローに対する教育システムでした。アメリカの泌尿器科レジデント枠は非常に競争が激しく、とりわけ Mayo Clinic はレジデントが 3 カ月周期で同じスタッフのもとで診療を学ぶ独自の教育システムを持ち、米国のマッチングにおいても極めて競争の激しいポジションとされています。(去年は 80 倍の倍率であったと伺いまし



図 1 Oncology team の dinner (抄読会つき) と Dr. Fabrice のラボメンバーとラボミーティングの 1 枚。コース料理を食べながらいきなり抄読会が始まるスタイルには大変驚きました。



図2 病院内外でスタッフ・フェロー・レジデントの皆様によくしていただきました。特に右下の Dr. Tal には滞在中色々と親切にさせていただきました。

た。) そのような背景もあり、レジデントの先生方が Mayo Clinic で働いていることに大きな誇りを持ち、積極的に多くのことを学ぼうとする姿勢が印象的でした。また、各学年でディレクターからの評価を受け、その内申点が次のポジション獲得に影響するという話も伺い、日本とは異なる教育システムに触れ、身が引き締まる思いを感じました。

また AUA2020 にて、たまたま隣でポスター発表をしていたことから交流のあった Dr. Fabrice (研究テーマもエクソソームであり、これまでに複数回国際学会で交流あり) が Mayo Clinic でラボを主宰していると事前に伺っていたため、研究所の見学もさせていただきました。ラボミーティングにも参加させていただき、最新の機器が揃った研究所で、ラボを主宰し研究を展開している Dr. Fabrice の姿を見て、自分もさらにレベルアップを目指して努力しなければと大きな刺激を受けました (図1)。

滞在中、特にフェローの Dr. Tal には大変お世話になりました。私が滞在していた時期には、NBA のミネソタ・ティンバーウルブズがプレーオフに進出しており、カンファレンスファイナル進出は 20 年ぶりということで、大変な盛り上がりを見せていました。試合の日には

スポーツバーでの観戦や、Dr. Tal の自宅でのパーティにご招待いただき、その熱狂を体験することができました。最終日には、NBA 選手のユニフォームまでいただき、推しのチームも作ることができました (図2)。

また、泌尿器科のグランドカンファレンスにおいて Grand Round として 60 分の時間をいただき、自身の研究について発表させていただきました。日本でも基礎研究を行う医師が減少している状況ですが、米国ではより一層分業が進んでおり、臨床医が医師免許取得後に基礎研究を行うことは非常に稀であると伺いました。そのような背景もあり、私の研究がどのように評価されるのか不安もありましたが、予想を上回る多くの質問をいただき、さらに今後の共同研究につながるお誘いまで受け、大変光栄でした (図3)。

今回の AUA/JUA Exchange Program には、名古屋市立大学の永井先生も選ばれており、見学先の施設は異なりましたが、米国滞在中も連絡を取り合い、情報共有ができたことは、単独で滞在していた私にとって大きな力となりました。また、以前、本プログラムにご参加された四谷メディカルキューブの阿南剛先生から、米国に行く前に有益なお話をいただく機会があり、大変参考にな



図3 Grand Roundでの発表と帰国前最終日の endourology team との dinner での一枚。来年の AUA での再会を約束しました。

りました。この場を借りてお二人に御礼申し上げます。
今後、この貴重な経験を活かし、引き続き臨床・研究・

教育に尽力してまいりたいと思います。改めて、両学会
関係者の皆様と医局の先生方に、心より感謝申し上げます。